

恋愛小説か社会小説か

—張恨水が『紅樓夢』を『金粉世家』の参考にしなかった理由について—

Romance Novel? Social Novel?

—A Study on Zhang Henshui's Reason for Denying that "The Story of a Noble Family" Made Reference to "The Dream of Red Mansion" —

李 斯 琪*

LI siqi

はじめに

『紅樓夢』は中国文学史において最も偉大な作品として高く評価され、20世紀の中国人作家にとって重要な意義を持っていた。この重要性は、多くの作家が『紅樓夢』を読んだことがあるだけでなく、彼らの作品にも影響を及ぼしたことに表れている。曹禺はかつて「若い頃、私が最も影響を受けたのは曹雪芹の『紅樓夢』であった」¹と述べたことがある。林語堂も「……その間にひとつ忘れてはならないことがあり、それは『紅樓夢』を読むことである。そうすると、執筆する際、自ずと『紅樓夢』から影響を受けることになる」²と述べ、自身の作品『京華煙雲』の主人公を『紅樓夢』をもとに描いたことを認めた。そして、市民読者の間で人気を博していた作家である張恨水の作品にも、『紅樓夢』の影響が見られるとされている。張恨水の代表作である『金粉世家』について、徐文滢は「『金粉世家』には、賈府に似た金総理の豪邸、モダンな林黛玉に似た冷清秋、流行の服を好んだ賈宝玉に似た金燕西が登場した。他にも賈母、賈政、賈璉、王熙鳳、迎春、探春、惜春などの登場人物がいる」³と指摘し、『金粉世家』は「『紅樓夢』の人間関係と恋愛を継承した小説である」⁴と評価した。

しかし、『金粉世家』の登場人物は『紅樓夢』と類似点があるにも関わらず、張恨水自身は『金粉世家』が『紅樓夢』の影響を受けたことを否定していた。1932年、張恨水は『金粉世家』の序文で「ある人は、『金粉世家』が民国版の『紅樓夢』だと言ったが、これは高く評価し過ぎだと思う。私はそこまでのレベルではなく、この傑作を模倣しようとはしなかった」⁵と強調していた。張恨水のこの否定的な立場は、何人かの学者の注目を浴びていた。例えば、袁進は「なぜか、張恨水本人は模倣を否定していた。しかし、『金

* り し き 国際文化研究科国際文化専攻博士後期課程

指導教員：新谷 秀明

¹ 曹禺「和劇作家們談談讀書和寫作」、『劇本』、1982年10月

² 林語堂「我的長編小説」、『宇宙風』、第49期、1939年10月

³ 徐文滢「民国以来的章回小説」、『万象』、第6期、1941年12月

⁴ 同上

⁵ 張恨水「写作生涯回憶」、『新民報』（北平）、1949年1月1日－2月15日

『金粉世家』には、『紅樓夢』を模倣した痕跡が明白に残っている」⁶と指摘した。また、張毅もこの点に気づき、『『金粉世家』を読んだ後、この小説の全体的な構成とテーマが古典の名作『紅樓夢』といくぶん類似しているように感じた。しかし、張恨水は『金粉世家』を民国版の『紅樓夢』であると比喻されることを何度も否定した」⁷と述べていた。従来の研究では、なぜ張恨水がこのような否定的な立場を取ったのか、その理由については必ずしも明確ではなかった。本論文はその理由について、考察したものである。

張恨水は両作品の違いについて、『紅樓夢』は多くの人物の物語を描いたが、作者の焦点は何人かの主人公にある。しかし、私の『金粉世家』では、焦点を家族全員に置き、主人公はその人間関係を辿る糸口に過ぎない。それに、小説全体の主旨から言えば、私は封建的な家族に対して革命的なアプローチを採用せず、冷清秋には闘志を持っているが、それほど強くない」⁸と簡潔に述べていた。明らかに、張恨水は小説の焦点と主旨の相違点から両作品の関連性を否定していた。以下、本論文では作者のこの観点に沿って考察を進めていきたい。

一、 両作品の焦点について

『金粉世家』は、1927年2月15日から1932年5月14日にかけて、『世界日報』副刊『明珠』に連載されていた。張恨水はこの作品について、「この小説では、政府総理金銓の家族全員の幸福と悲哀、奔放で品のない生活が描かれており、金燕西と冷清秋の恋愛、結婚、対立、別離が小説全体を結ぶ重要な要素として用いられている。また、金銓と彼の妻や愛人、四人の息子と四人の娘、その結婚相手に至るまで、その精神状態と家族に依存した生活も描かれている。それに、当時の官僚社会と一般の上・中層社会も作品に反映されている」⁹と述べた。ここでは、張恨水は二つの要点を強調した。1. 主人公の恋愛物語は小説全体を辿る糸口であるが、各登場人物の物語も同様に重要な役割を果たしている。2. この小説は家庭内部の描写にとどまらず、社会の面も反映している。

一方で、『紅樓夢』について、張恨水は『紅樓夢』は多くの登場人物の物語を描いているが、作者の焦点は主人公にある」¹⁰と述べており、『紅樓夢』のプロットは、他の小説のようにセクションに分かれていない。また、主人公以外の人物のために、その生い立ちを書くことはない。この小説では、宝、黛玉、釵という三人だけが主人公である。他の登場人物についての物語はほとんど描かれていない」¹¹と指摘した。つまり、張恨水の両作品に対する観点を比較してみると、宝、黛玉、釵の三角関係の描写に焦点を当てている『紅樓夢』に対し、『金粉世家』は金冷の恋愛ではなく、家庭と社会の描写に重点を置いていることがわかる。

実は、『金粉世家』は、張恨水が家庭と社会に焦点を当てて取り組んだ最初の作品ではない。1924年に長編小説『春明外史』を執筆した際、張恨水は「人々を冷静に観察することで不満を募らせ、心の中で『儒林外史』や『官場現形記』のような小説を書きたいと思っていた」¹²と述べている。『儒林外史』と『官場現形記』は、清末における科挙の腐敗と官僚制度の闇を暴露することで社会を描写した小説であり、清末の社会小説の代表作とされており、この記述から、張恨水が社会小説を書くという意志を明確にしたこと

⁶ 袁進『小説奇才張恨水』、上海書店出版社、1999年2月、p73.

⁷ 張毅『文人的黄昏—通俗小説大家張恨水評伝』、華夏出版社、1991年6月、p102.

⁸ 「写作者生涯回憶」

⁹ 張恨水「我的創作和生活」、『文史資料』、第70期、1980年

¹⁰ 張恨水「創作自述」、『上海画報』、1931年1月27日—2月12日

¹¹ 張恨水「紅樓夢戲」、『世界日報』第7版、副刊『明珠』、1927年3月12日、この記事では張恨水は「哀梨」というペンネームで発表した。

¹² 「創作自述」

がわかる。

『金粉世家』に恋愛の要素を含めた理由について、張恨水は社会小説の欠点に配慮したことに関係があると考えていた。社会小説の欠点について、張恨水は「一つの話語り終わると次の話へ移るという、中心となる部分が欠如している」¹³と指摘した。そのため、張恨水は小説を執筆する際、社会小説の構成上の欠点を以下のように克服しようとした。「私は長編社会小説で、まず主人公を設定し、その他の人物を何人か追加して交互に挿入しようと思っている」、「社会現象を描き、同時に主人公の物語を社会現象に発展させる」¹⁴。張恨水はこの手法を「『紅樓夢』の方法で『儒林外史』を書く」¹⁵、つまり、「社会を経度にし、恋愛を緯度にする」¹⁶と概括した。このように、社会で起こるさまざまな出来事が小説のプロット全体の基盤となる。同時に、男女の恋愛を中心することで、それが社会の出来事の様々な要素を結びつける接着剤として小説全体を一貫させる役割を果たす。つまり、張恨水にとって、恋愛を描くことは社会を描写するための手段に過ぎない。

『金粉世家』には、複数の人物の物語が交互に絡み合い、四男の金燕西と冷清秋の恋愛物語にとどまらず、長男の金鳳挙と妻である佩芳、次男の金鶴蓀と慧場、三男の金振鵬と玉芬といった様々な人物の物語が含まれている。具体的には、小説の第1章から50章では、金燕西と冷清秋との恋愛物語が進行している一方で、兄の金鳳挙と兄弟らが社交的な場で娯楽を楽しむ物語が交錯している。例えば、金鳳挙が娼婦を妾に迎え別の家庭を築く、金鶴蓀が娼婦の裸の写真を撮る、金振鵬が男性役者と遊ぶなどというプロットがある。第51章から75章では、小説の焦点が金冷の結婚後の生活に移ったにもかかわらず、金鳳挙の物語として、妾の晚香が金鳳挙のお金を巻き上げて逃げたエピソードが登場した。その上、金振鵬の物語についても、妻の玉芬が心労のあまり病臥した際に天津で女優と遊んでいたというエピソードを描いた。第76章以降、金冷の結婚生活が終わりを迎えることにより、清秋の家出に焦点が移り、金銓の死、金家の火事、母親の西山での仏法修行、金燕西の西洋への留学などが描写されている。これまでの評論は、常に『金粉世家』を『紅樓夢』と同一視し、「『金粉世家』の真の主人公は金家の不孝息子である金燕西である。それは流行の服を追っている賈宝玉であり、頹廢した現代社会の若者で、また裕福な家柄の息子である。『金粉世家』は、そのような金燕西が貧しい家柄の女学生の冷清秋と恋愛し、結局裏切る物語である」¹⁷という視点に固執し、他の登場人物と物語の多様性を適切に評価していなかったため、張恨水の考え方とは異なると言えよう。

加えて、張恨水の恋愛小説に対する態度も注目に値する。筆者は、副刊『明珠』に掲載されている「恋愛小説家の弁護」と題された記事から、張恨水の恋愛小説に対する姿勢を見出した。「恨水は私の親友であり、恋愛小説家には不満を持っている」¹⁸。また、特約記者である宮白羽も、1926年に『世界日報』において「恋愛小説は張恨水の「禁止区域」である」¹⁹と述べた。それでは、なぜ張恨水は自身の作品を社会小説として位置づけ、恋愛小説に対して否定的な立場だったのか。筆者は、これは時代背景および作家の創作環境などの要因が影響していると考えている。以下では、これらの要因について検討する。

¹³ 同上

¹⁴ 同上

¹⁵ 同上

¹⁶ 張恨水「総答謝一并自我検討」、『新民報』（重慶）、1944年5月20日－1944年5月22日

¹⁷ 宋偉杰「老靈魂、新青年与張恨水の北京浪漫史」、『中国現代文学研究叢刊』、2010年、第3期

¹⁸ 『世界日報』、第五版、副刊『明珠』、1926年6月29日

¹⁹ 叶洪生「末路英雄咏嘆調—白羽之文心」、宮白羽『毒砂掌』、中国文史出版社、2017年1月、p365.

二、張恨水が自分の小説を社会小説と見なす理由について

まず、五四新文化運動という背景において、新文学の担い手が「鴛鴦蝴蝶派」に対して否定的な評価をしていたことが影響したと考えられる。1911年から1916年まで、伝統的な章回体の恋愛小説が流行し、それは、文壇の主要な小説のジャンルとなっていた。代表作として、1912年に発表された徐枕亜（1889-1937）の小説『玉梨魂』が挙げられる。そこでは、主人公何夢霞と未亡人である梨娘が愛し合うが、当時は、未亡人の再婚は許されておらず、梨娘が苦悩の果てに自死するという恋愛の悲劇が描かれている。このような男女の恋愛の悲劇を描いた作品は、民国初年において流行しており、その後、五四新文学の時代には、「鴛鴦蝴蝶派」と呼ばれるようになった。1919年2月2日、周作人による「中国小説中の男女問題」という記事には、「最近、流行している『玉梨魂』は非常に情緒纏綿であり、鴛鴦蝴蝶派の祖師である」²⁰と書かれている。また、五四新文化運動の隆盛とともに、このような男女の恋愛に焦点を当てた小説家は、新文学から皮肉られ、攻撃の対象となっていた。

1924年以降、張恨水は長編小説の創作により新聞業界で注目を浴びたとともに、文学評論界の注目を集めていたが、1930年代頃、張恨水も鴛鴦蝴蝶派の一員とみなされていた。左翼作家である錢杏邨の「上海事変と『鴛鴦蝴蝶派』文学」はその証明である。錢杏邨は張恨水を「封建主義の名残」と見なし、張の小説は「封建的な意識」と「ブルジョア意識」を反映していると主張し、張恨水に対して非常に厳しい批判を行った。新文学からの批判に対して、張恨水は『写学生涯回憶』において、自分が鴛鴦蝴蝶派であるかどうかについては沈黙を貫き通していると何度も述べたが²¹、上官纓が「張恨水小説新考」において「張恨水自身は他人が彼を鴛鴦蝴蝶派というのを好まなかった。彼は自身の一部の小説は社会小説であると述べたことがある」²²と記し、張恨水が自身を鴛鴦蝴蝶派の小説家だと見なされることを望んでいなかったことを明らかにしている。このことから、自分の小説は恋愛小説ではなく、社会に焦点を当てていることを強調した理由が鴛鴦蝴蝶派と区別するためであったことがわかる。

次に、張恨水の立場は、彼の新聞記者兼小説家という職業および創作環境と関連すると考えられる。清代末期は中国の小説の全盛期である。樽本照雄の『新編増補清末民初小説目録』によると、1840年から1919年までの間に中国では計19156の小説が発表された。そのような背景のもと、当時の小説は比較的詳細に分類された。分類法はさまざまであるが、1906年に陸紹明によって提示された「十一類分類法」²³では、歴史小説、哲学小説、理想小説、社会小説、探偵小説、武俠小説、国民小説、恋愛小説、喜劇小説、軍事小説、伝奇小説の11のジャンルに分けられた。

社会小説は主に当時の新聞業界で働く小説家によって執筆されたものである。執筆者の中には、李伯元（1867-1906）、吳趸人（1866-1910）などの有名な小説家が含まれている。社会小説の創作方法について、小説家包天笑（1876-1973）は吳趸人に聞いたことがある。当時の二人の対話の一部が、「吳趸人は微笑みながら、日記のようなものを見せてくれた。その中には、友人と話したありとあらゆる時事が書かれており、他にもノートから抜粋されたものや新聞から切り抜かれたものが混ざり合っ、分厚い冊子となっていた……これらの素材をどのように整理するつもりであるか聞くと、吳趸人は、我々は素材に一本の糸を

²⁰ 周作人「中国小説中の男女問題」、『每周評論』、1919年2月2日

²¹ 徐永齡、張正『張恨水散文』、第三卷、安徽文芸出版社、1955年、p484、p503-504、p508を参照、「这时，有些前辈，颇认为我对文化运动起反动作用。但是我依然未加申辩」、「但我对这些批评，除了给以注意，自行检讨外，并没有拿文字去回答。而我对于这个派不派的问题，也没有加以回答」、「当然我还是一贯地保持缄默。我认为被批评者自己去打笔墨官司，会失掉有则改之，无则加勉的精神，而徒然扰乱了是非」

²² 上官纓「張恨水小説新考」、『文芸論稿』、1981年第4輯

²³ 陸紹明「月月小説發刊詞」、『月月小説』、第1年第3号、1906年

通す必要がある。おそらく社会小説を書く全員がそうするだろう、と述べた²⁴というものである。つまり、社会小説の創作方法は小説家が聞いた社会的事件、新聞記事を素材とし、それらの素材を繋ぎ合わせるといえるのである。

張恨水は1918年頃に新聞業界に足を踏み入れ、清末民初の小説家と同様に、新聞記者としてのキャリアを積みつつ小説家としての道を歩いた。新聞記者としてのキャリアは、張恨水に多岐にわたる時事的な情報を入手する手段を提供し、そこで得られた出来事は自然と彼の小説の素材となっていた。この点について、張蓄は「新聞記者としてのキャリアは、張恨水が新聞や時事に触れる機会を与え、その結果、彼は小説に新聞や時事の要素を取り込むことを可能にした。これにより、小説に豊かな物語の素材を提供し、また、新聞にも魅力を与えた」、「目の前の社会こそが、張恨水の章回小説を書く素材である」²⁵と述べた。また、湯哲声は、小説『春明外史』を評価する際に、「『春明外史』は、20世紀の北京における風俗を描く作品である。北京の長屋、居酒屋、遊郭、賭場、会館、そして特有の政治文化の環境である議会、豪邸、高級ホテルなど、これらすべてが張恨水の筆により繊細かつ生き生きと描かれている。特に魅力的なのは、小説の中には当時社会的に話題を集めた出来事について多くのエピソードが含まれており、登場人物が当時の中国社会で活躍していた有名な人物だという点である」²⁶と述べ、社会小説の視点からこの作品を評価した。

三、両作品の主旨について

張恨水の言葉から、『金粉世家』と『紅樓夢』のもう一つの違いは、二つの作品の主旨が異なるということが浮かび上がる。それでは、『金粉世家』の主旨は何であるのかが本節の課題となる。

1932年、『金粉世家』の序文を執筆した際、張恨水は「『金粉世家』の中の物語は実在するのか、小説の主旨は何であるのか、これらのことは問う必要はないだろう。ある人は『金粉世家』は『紅樓夢』を参考にしたようであり、『新紅樓夢』とも言えると言った。私はうんうんと答えたが……物事に対する見方によって異なるため、小説の主旨を定める必要はないだろう。同意しなくても、ただ聞くだけでいい。なぜ議論しなければならないのだろうか」²⁷と述べ、この小説の主旨を明確に説明しなかった。筆者は『世界日報』の副刊『明珠』を閲読し、『明珠』には『金粉世家』の前に、張恨水の『新捉鬼伝』や『荊棘山河』などが連載されており、そして、『荊棘山河』²⁸の連載が終了した直後、「金粉世家上場白」²⁹という記事が掲載されていたことに気がついた。この記事はこれまでに出版された『金粉世家』の単行本には含まれておらず、研究者の関心を引いていなかったが、『金粉世家』の主旨について触れている。

²⁴ 趙毅衡『苦悩の叙述者』、四川文芸出版社、2013年3月、p158.

²⁵ 張蓄『章回体小説の現代歷程』、北京大学出版社、2016年11月

²⁶ 湯哲声「被遮蔽的路径：中国伝統章回小説の現代化の途—張恨水『春明外史』『金粉世家』『啼笑因縁』賞析」、『名作欣賞』、2020年2月1日

²⁷ 張恨水『金粉世家（上）』、北岳文芸出版社、1993年1月、p 2.

²⁸ 『荊棘山河』が連載されていた時、国民革命軍による北伐戦争が勃発した。北京にある新聞社は軍閥に対する非難が激しく、軍閥の激しい反感を引き起こしたため、暴力的な鎮圧策が行われた。1926年4月、『京報』の社長邵鷹萍が処刑され、8月には『社会日報』の主筆林白水が銃殺された。同年、張恨水が勤務していた『世界日報』も影響を受け、社長成舍我が張宗昌に逮捕された。その後、『世界日報』は掲載中の記事に対する徹底的な自己検閲が始まった。『荊棘山河』は、軍閥が庶民に多大な苦難をもたらした小説であるため、連載が中止された。（筆者注）

²⁹ 張恨水「金粉世家上場白」、『世界日報』副刊『明珠』、第七版、1927年2月13日

長篇 小説 金粉世家 (水恨)

上場白

予之作小説也，常欲賦自念，如何可使小讀者一小説，及略有所成，則又復轉一念，如何使人讀我之小説，則有益。此念明白告人，誠足為讀者所鑒，實以談出假借。然謂作小説必不應如此，則使天下作小說者，一律極其狂悖，其人消遣而已。以小說為業者，彼又未必承認也。

讀小説之益，果何在乎？以何例證之，其有二：國家社會之思，託諸寓言，善善惡惡，取逐春秋，若精忠傳洪秀全演義，看演滄流記一類之書是也。摘取人生事實之一部分，現身說法痛加針砭。啟事振聵，借鏡將來。若官場現形記，儒林外史，紅樓夢一類之書是也。其他如詞話中觀，筆法井然，足為讀者文學之扶助，或補述科學，深理淺說，足為少年課外之領悟。而新舊各書，又比比皆是。然則謂小説可往有益上作，又豈得認為妄語耶？故予於尋常外史之外，頗欲另闢新徑，以一部為試。於是乃有荆棘山河之作焉。

予為荆棘山河之本意，殆毋庸為之申述，而於其標題，即可一覽而無餘。然成書一回之後，予即大悔，以為劍拔弩張，得毋非窮措大所以自處者。願以書既下筆，無可中止，但於立意而曲為尋過，下筆而善自檢具，未嘗不念文章家蘊藉之行，又何害焉。

(未完)

「金粉世世上場白」(1)

長篇 小説 金粉世家 (水恨)

上場白

蘇東坡詩曰：野馬見人嘶，未起意也。予之作荆棘山河之時，毫無日而不為野馬，蓋胸中所蘊之荆棘山河是一部小説。而報上發表之荆棘山河，又是 部小説也。作小説如此，毋乃大苦，作長篇小説如此，毋乃更苦？人生之至便，莫如以我之心，運我之手，以我之手，運我之筆。此猶不能指揮如意焉，則誠不知其已矣。

予之感想，有如上述，故予對荆棘山河之一書，在去年暮冬，即不欲復作。新春假期，容出入歌練之場，聊以自慰。而耳所聞目所見者，則種種縮影，花氣衣香，無不薰人欲醉。然則吾人真謂國家為窮苦國家，社會為窮苦社會，得毋有所偏歟？人所欲恨者為窮苦，人所歡迎者為娛樂，吾既寫遍地荆棘不得，又易不一易筆鋒，而寫滿日昇中景象乎？此一轉念，荆棘山河之官告別刑，吾言已決，而金粉世家之命筆，遂塵塵欲發，不可收拾焉。

昔司馬遷作史，有本紀，有世家，有列傳。世家者，世祿之家也。人生可貴者莫如金，可受者莫如粉。今吾曰金粉世家。則吾所書，當亦為人人所喜悅愛好矣。或曰：然則對於讀小説有益之說，又何以相合乎？予曰：亦惟有以仁者見仁，智者見智之老調，以相答耳。交代既過，明日請看假丁。

「金粉世世上場白」(2)

張恨水はこの記事において『金粉世家』の創作意図について述べている。作者が「私は小説を書く際、内心で考えていた。どのようにして人々に私の小説を読んでもらえるのか。少し成果が出た後、どのよう

にして人々に私の小説を読ませて、同時に、そこから利益を得られるのかを考え直した。」³⁰と指摘したように、張恨水の最初の執筆目的は、小説で読者を引き寄せることであつた。お金と恋愛は読者にとって魅力的なテーマであり、『金粉世家』は読者の関心を引くことができると考えられた。つまり、作者が最初に考慮したことは小説の娯楽的な面白さであつた。しかし、1926年に『荆棘山河』を執筆したときから、小説の娯楽的な面白さだけでなく、読者に有益な読書体験と教訓を与え、社会教育的な価値を持つべきだと考えるようになっていた。このように、作者の創作における思想は変化した。しかし、民国時代の新聞検閲制度などさまざまな原因から、『荆棘山河』の連載は打ち切られ、それ以降、作者が下層社会の苦境を描くことは許されなかった。こうした状況のもとで、『金粉世家』は『荆棘山河』と同様の思想を持ちながらも、方針を変更した作品として誕生した。張恨水は、それについて「下層社会の苦難を表現することができないのであれば、方向性を変えて平和な光景を描いてはどうか。このように、考えを変えたところ、『荆棘山河』は死刑を宣告されて私の意図が実現できなくなったので、『金粉世家』の創作意図がどんどん膨らみ、もう止めることができなかつた」³¹と述べた。こうして、『金粉世家』は読者に有益な小説を書くべきだという思想を反映した『荆棘山河』に続く試作品と見なすことができる。

1. 『金粉世家』の主旨とは

読者にとって有益であるという視点から『金粉世家』を再評価すると、この作品は上流人士の贅沢な生活様式を描いているように見えるが、その背後には道徳的な啓示や教訓が含まれている。例えば、小説では、貧しい家庭出身の娘である冷清秋が裕福な家庭出身の息子である金燕西と結婚し、最終的に捨てられた悲劇的な運命が描かれた。ここでは、名家に嫁いでも、最終的に幸せになれるとは限らないということを示唆している。

結婚前、金燕西は冷清秋を熱烈に追いかけて、彼女との結婚を願っていたが、結婚後、態度を変えた。第50章において、結婚式が行われた日に、金燕西は内心では、「男性も女性も、結婚しない方が良い。結婚すると、束縛されて他の女性から愛されなくなる」³²と考え、結婚のことを後悔するという描写がある。第53章では、金燕西が夜通し帰らず、冷清秋が「燕西はなんて親切な人だろうか。私には深く心を傾け、すべてを犠牲にして私を追いかけて来てくれて、彼の嫁にならなかつたら、どこでこんなにいい男性を見つけられるだろうか。でも、結婚してしまつたら、こんな状況になってしまい、前途多難で、今私は本当に苦しんでいる」³³と後悔していた。また、小説の結末には、金燕西の冷酷な一面が描かれている。二人の恋愛関係が破綻した後、冷清秋が川に身を投げて自死したという噂が広まった時、燕西は「もちろん、私は少しは心配しているつもりだが、彼女が死んだ責任は負えない。ある人が死ぬことを望んだとしても、その人には手と足があり、いつでも生きるか死ぬかを選べる。他人がその人を監視できるはずがない」³⁴と考えていた。燕西の母親が燕西に清秋の家を尋ねるよう勧めると、燕西は心の中では、「清秋の母親は娘を愛しており、今、清秋が行方不明になり、彼女の母親にとっては自分の生命の一部を失つたのと同じだ。冷家が金家に来て彼女を探さないのには、何か理由があるはずだ。冷家はきっと、何らかの方法を企てて

³⁰ 『金粉世家上場白』、原文「予之作小説也，常默默自念，如何可使人读吾之小説。及略有所成，则又转念一想，如何使人读我小説而有益。」

³¹ 『金粉世家上場白』、原文「吾既写遍地荆棘不得，又曷不一易笔锋，而写满目升平景象乎？此一转念，荆棘山河宣告死刑，吾念已绝，而金粉世家之命意，遂酝酿欲发，不可收拾焉。」

³² 『金粉世家（中）』、p669. 原文「这样看起来，无论男子和女子，还是不结婚的好，结了婚身子有所属，就不能得大多数的人来怜爱了。」

³³ 『金粉世家（中）』、p710. 原文「他是怎样一个随随便便的人，对我却肯那样用心，而且牺牲一切来就我，我不嫁他，哪里还找这种知己去？可是嫁过了，就是这样的一副局势，前途又非常的危险，我这真是自寻苦恼。」

³⁴ 『金粉世家（下）』、p1409. 原文「我当然不能不担点忧愁，但是说我一定要负什么责任，我是不承认的。你想，一个人愿意牺牲的话，有手有脚，随时可生可死，旁人哪里看守得住？」

我が家に復讐しようとしているに違いない」³⁵と考えていた。この描写では、燕西が清秋の生死を心配するどころか、むしろ潜在的な脅威と見做したことは明らかである。以上のように、燕西が結婚後に冷酷で無情な一面を見せたことを十分に表現しており、燕西のような裕福ではあるが、品性に欠ける男性に深い愛情を捧げると、大きな代償を支払うことになるということを示している。

また、金家の没落の描写を通して、若者は努力して自立すべきであり、奔放な生活に陥るべきでないことも教訓として提示している。小説の結末では、作者が母親の口を借りて若者に忠告する場面が繰り返して出てくる。例えば、第103章では金銓が亡くなった後、母親が息子たちを叱責する場面が描かれ、「お前たちは良心のかけらもない連中だ。こんな時になおもたらふく食べて、大騒ぎするのか」³⁶、第104章では、「人間は自分の能力で成功を築くべきで、親の財産の有無は関係ない……」、「いかなる裕福な家庭が生涯栄華を楽しむことができるのか。いかなる貧しい家庭が生涯苦しむのか。世の中の出来事は結局、人間の行動が決めるのではないか」³⁷と語った。このように、作品は登場人物を通して、読者に道徳的な叱責や忠告を伝えていることがわかる。

2.『紅樓夢』との比較

『紅樓夢』の主旨について、魯迅は「この小説の主旨といえば、読者の視点により、さまざまな解釈がある。経学家は『易』を見る。道学家は卑猥を見る。文学家は恋愛を見る。革命家は封建的な社会の問題を見る。そして、嗜好好きな人は宮廷の秘密を見る」³⁸と述べ、『紅樓夢』の主旨の複雑さを指摘した。1954年以降、中国の文学界では一般的に『紅樓夢』が反封建主義の視点から再評価されている。『紅樓夢』の結末では、賈家が没落する運命から逃れられず、小説の登場人物は、檻に閉じ込められるか、あるいは死に至るかという、極めて悲惨な運命をたどる。作者はこれを通じて、封建的な社会制度が必ず滅亡につながるという深刻な主旨を示している。

『金粉世家』の主旨について、張恨水は「小説全体の主旨から言えば、『金粉世家』では、封建的な家庭に対して革命的な手段を取れなかった」³⁹と述べた。『金粉世家』の結末では、金家の没落の原因を金銓の死に帰結させている。それに金家の息子たちの行く末は単に大家族から離れ、それぞれが外で小さな家庭を築き、宝玉などのような悲惨な運命には陥らなかった。以上のように、『金粉世家』は『紅樓夢』ほど封建的な社会制度を批判するには至っていないと言えよう。

また、注意すべきは、『金粉世家』は民国時代に誕生した長編小説であり、当時の社会に広く蔓延していた問題に触れている。すなわち、男性が女性を遊びの対象と見なすことである。男性の抑圧に抵抗することは反封建的な意義を持つテーマである。このテーマは五四新文学作家の作品でよく表現されている。1928年に丁玲が執筆した小説『莎菲女士の日記』はまさにこのテーマを取り上げた作品であり、小説の中では、莎菲のような強い意志を持つ女性主人公が、男性から離れる勇気を持ち、社会の闇に立ち向かう姿が描かれている。

この点では、『金粉世家』の中で、男性に抑圧された女性が抵抗している描写があるが、しかしそれほど激しくはない。たとえば、第42章で、金銓の妾である翠姨は自身が封建制度の犠牲者であり、男性に遊び

³⁵ 『金粉世家（下）』、p1410。原文「冷太太和清秋，是彼此十分亲爱的，清秋走失了，就是丢了她半条命，她如此放过金家，不向金家找人，决无此理。既然没有这个道理，一定是在想什么法子，来摆弄金家了。」

³⁶ 『金粉世家（下）』、P1377。原文「你们都是些毫无心肝的东西！到了现在这种时间，你们还能够大吃大喝大乐？」

³⁷ 『金粉世家（下）』、p1394。原文「一个人要创造一番事业来，只凭他自己的本领去混，不在乎有产业没产业……」、「哪一个富贵人家，能荣华一辈子？哪一个清寒人家，又会穷苦一辈子？天下的事，还不事在于人为吗？」

³⁸ 魯迅「絳洞花主小引」、1927年1月14日、『集外集遺補篇』、人民文学出版社、2005年11月、p179。原文「单是命意，就因读者的眼光而有种种：经学家看见《易》，道学家看见淫，才子看见缠绵，革命家看见排满，流言家看见宫闈秘事……」

³⁹ 「写作生涯回憶」

の対象と見なされていることを知りながらも、金家での生活を我慢し続けている。翠姨は皮肉っぽく笑いながら、「あなたたちの家には少し余裕があるから、よその娘を虐めているのね。ふん。今回はまたどんな女性が私のように不運な目に遭わされ、卑屈になって、あなたたちのいじめを我慢するのか、わからない。ふん。私はあなたのような人をもう見透かしているわ」⁴⁰と語った。同じく第42章では佩芳が、夫の金鳳挙が娼婦と遊ぶことを許せず、離婚を求めた。「あなたが戻らなくても大丈夫よ。8年経っても、10年経っても、一生帰らなくても、誰もあなたのことを気にしない。ただし、私を簡単に捨て去ることは許せない。私たちはしっかり話し合わなければならない。あなたはお金と権力を持っているからといって、女性を勝手に傷つけられるとでも思っているの。あなたは車や豪邸を持っているから、私を自分のおもちゃにできるとでも思っているの。あなたが私を必要としないのであれば、私もあなたはいらない……」⁴¹と大騒ぎしたが、結局は離婚せず、夫が家庭に戻るのを待つことにした。小説の中で唯一金家を離れた冷清秋さえも、彼女の離婚は自発的なものではなく、迫られた選択である。第97章で、金燕西の妹である梅麗が清秋に燕西と離婚しないよう説得した際、清秋は「私、離婚したいわけじゃない。それは仕方ないのよ。私があなのお兄さんから離れなくても、あなたのお兄さんは私から離れるのよ……」⁴²と語っていた。つまり、『金粉世家』は男性主人公に対して強く抵抗するのではなく、むしろ我慢し、従属する姿勢を示している。作者自身も、女性主人公の従属的立場を意識しており、「冷清秋は闘志を持っているが、それほど強くない」⁴³と指摘した。

このように、『金粉世家』は家庭の反封建的な描写においては、『紅樓夢』のようなレベルには達しておらず、女性の反抗意識の描写において、五四新文学作家の作品からは一定の距離があると言えよう。梅雯が「『金粉世家』は家庭生活の美しい側面を十分に示しているものの、家庭内の人間関係に対する深い考察と批判的な力が不足している」⁴⁴と指摘したように、作者は『金粉世家』を再評価する際、「今振り返ってみると、この小説はやはり娯楽の要素が強い」⁴⁵、「小説の中の教育性は、いくつかの教訓を示すに過ぎず、各登場人物に対して、活路を示すことはできなかった」⁴⁶と認めた。

おわりに

以上、張恨水が『金粉世家』と『紅樓夢』の類似性に対して否定的な態度を示した理由について、詳細に検討した。張恨水は、両作品には二つの違いがあると考えていた。まず、『金粉世家』は家庭と社会の描写に焦点を当てている点が『紅樓夢』とは異なる。それに、『金粉世家』は反封建的という主旨においては『紅樓夢』のように深く掘り下げていない。

しかし、『金粉世家』は依然として特別な文学的あるいは教育的な価値を持っている。その上、伝統的な社会小説の構成の欠点が改良されている。また、『金粉世家』は新時代の読者に道徳的価値観を呼び覚まさせるという点では一定の役割を果たしている。

以上を二つの点にまとめると、次のようになるだろう。一点目は、作者が自身の小説を社会小説

⁴⁰『金粉世家（中）』、p561. 原文「翠姨冷笑了一声，说道。你们家里有几个臭钱，就是这样糟蹋人家女儿。哼！这又不知是哪里倒八百年霉的可怜虫，又要像我这样低眉下贱，受人家的气了……哼！我把你们这班人看透了……」

⁴¹『金粉世家（中）』、p551-552. 原文「你不回来，都不要紧，十年八年，甚至于一辈子不回来，也没有谁来管你。只是你不能把我就如此丢开，我们得好好地来谈判一谈判。你以为天下女子，只要有你有钱有势，就可以随便蹂躏吗？有汽车洋房就可以被你当玩物吗？你不要我，我还不要你呢！」

⁴²『金粉世家（下）』、p1280. 原文「我哪里是愿意这样，也是没有法子呀。我不离开你哥哥，你哥哥也是要离开我的……」

⁴³「写作生涯回憶」

⁴⁴梅雯「家族生活和新旧交替之際的人－以四部現代長編家族小説為中心」、『文学史研究』、2000年1月

⁴⁵「写作生涯回憶」

⁴⁶同上

であると認識していたことである。これは今までの張恨水の小説が恋愛小説であるという一般的な認識と異なっている。張恨水が自身の小説を社会小説であると強調し、恋愛小説ではないとする理由について、主に二つの理由があると考えられる。第一に、張恨水の立場は五四新文学が鴛鴦蝴蝶派の恋愛小説に反対していたという文学的環境と関連する。第二に、張恨水の新聞記者の身分は、彼が社会時事に関心を寄せ、小説の創作に社会的な要素を取り入れる機会を与え、それによって小説に社会的な特徴を寄与している。

二点目は、1920年代に鴛鴦蝴蝶派の娯楽的な文学観は新文学によって批判されていたという背景の中で、1927年に張恨水は『金粉世家』を執筆した際、小説が単なる娯楽的なものであるだけでなく、読者に有益であるべきだと認識しはじめたことである。このことは、作者の創作における思想がいったん形成されると固定化するのではなく、時代と共に進化していくことを示している。これらを念頭に、他の作品も含めて包括的に張恨水の文学観の変遷をたどっていくことが、今後の課題と考えている。